

陸生鳥類が直面する様々な危機

過剰な狩猟

多くの鳥たちが食料やペット、放生(宗教儀式のひとつ)などのために、捕獲されています。違法な捕獲も多く、密猟を減らすために各国における法整備とその確実な施行が求められます。



画像提供: 陸建樹

生息地の消失

生息地である湿地や草原が、開発や農地への転換により減少しています。生息地の保護区化などの対応が必要です。また、気候変動も環境を変化させます。



農薬の影響

農薬の過度な使用は、陸生鳥類の餌となる昆虫を減らすだけでなく、農薬が鳥の体内に蓄積し、その影響も懸念されます。特に東南アジア地域で、適切な利用のための普及啓発が課題となっています。



【住民と守る地域の自然】

これらの問題の解決には、政府による対応だけでなく、地域住民の理解の促進が不可欠です。多くの人に問題を知ってもらい、行動の変化を促していかなければなりません。



モニタリングに参加しよう モニタリングサイト1000陸生鳥類調査

本調査は、環境省の事業の1つとして、日本野鳥の会、バードリサーチが事務局となり運営されています。調査協力者を随時募集していますので、興味のある方、参加したい方は、下記までご連絡下さい。

連絡先: 日本野鳥の会 自然保護室内
モニタリングサイト1000事務局
TEL: 03-5436-2633 FAX: 03-5436-2635
E-mail: moni@wbsj.org

東アジア陸生鳥類モニタリングスキーム について知ろう

本スキームは、バードライフ・インターナショナルがコーディネーターとなり、活動を推進しています。

連絡先: バードライフ・インターナショナル東京
TEL: 03-6204-2941 FAX: 03-6204-2942
E-mail: simba.chan@birdlife.org

協力団体



◆本資料の電子版は下記よりダウンロードできます。



日本野鳥の会
<https://www.wbsj.org/activity/conservation/research-study/monitoring1000/>



バードリサーチ
https://www.bird-research.jp/1_katsudo/forest/moni.html



発行者: 環境省自然環境局野生生物課
協力: バードライフ・インターナショナル東京
デザイン: 大久保香苗 発行日: 2020年3月

アジアの鳥を 調べよう 記録しよう

～アジアの陸生鳥類のモニタリングと保全～



私たちのアジアでは、陸生鳥類のいくつかで、深刻な減少がわかっています。もしかしたら、そのほかの身近な鳥たちも、少しずつ、いなくなっているのかもしれない。鳥たちの現状を科学的に、国際的に見つけ、保全する仕組みが、今、必要です!

<このリーフレットで対象とする「陸生鳥類」は、森林や草原に生息し、渡りをする鳥類です。>



陸の渡り鳥、減ってませんか？

アジア地域に生息する陸生鳥類は、シマアオジやカシラダカなどを筆頭に、その個体数が減少していることが明らかになりつつあります。

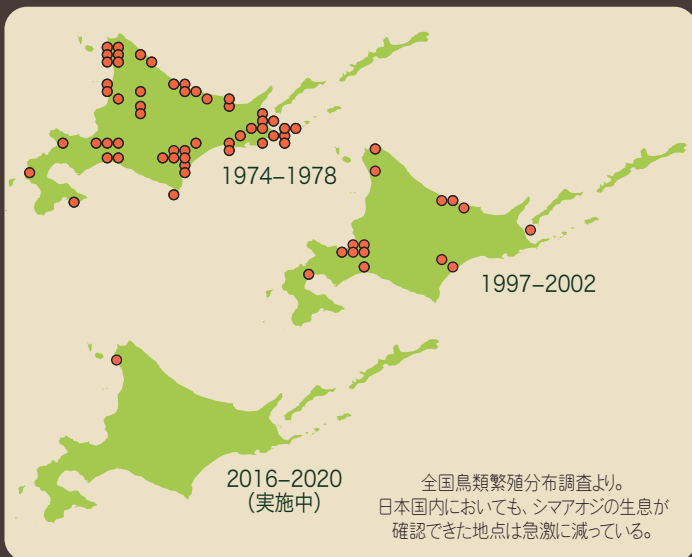


画像提供：長谷部真



画像提供：Allen Chan/HKBWS

シマアオジは、この数十年で急激に個体数が減少しました。国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストで軽度懸念とされていた2002年に比べて、2017年には世界の総個体数が80%以上も減少し、深刻な危機にある絶滅危惧 IA類に指定されました。



この2種だけでなく、他の陸生鳥類たちも、渡りのルート上での密猟や農薬、気候変動など、さまざまな影響を受けていると考えられています。しかし多くの種では、個体数の増減や分布の変化の傾向などは、正確にはわかっていません。

渡り鳥たちがどのような状況に置かれているのかを把握し、生息地全体で保全を進めていくためには、各地において長期的なモニタリングが必要です。

アジアのモニタリングの現状は・・・

『沈黙の春』が出版された1960年代以降、ヨーロッパ地域では環境問題への理解が大きく進み、1970年代以降、20以上の国が参加する陸生鳥類のモニタリングが開始され、多くの市民が参加しています。

一方、アジア地域では、統一されたモニタリングのシステムがなく、ほとんど情報が無いのが現状です。



画像提供：バードリサーチ



モニタリングサイト1000
Since 2003

環境省では全国にモニタリングサイトを設置し、生物多様性に関する基礎的な情報を、長期にわたり収集し、自然環境の質的・量的な変化の早期把握に努めています。

陸生鳥類については400か所以上のサイトがあり、アジア地域で唯一、国で統一された調査で、これまでに総勢約600名が参加しています。継続的・安定的にデータをとりに続けるには、今後も多くの人の参加が必要です。

<http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>

はじめた 東アジアにおけるモニタリングの国際協力

日中韓口の二国間の渡り鳥等保護条約・協定等会議を通じて、アジアの陸生鳥類の減少についての懸念が共有され、2015年3月に「東アジア陸生鳥類モニタリング・スキーム」が発足しました。

2018年に行われた会議では、各国で行われている鳥類標識調査の結果をもとに、ホオジロ科の鳥類について4か国で共同研究をすることが決まりました。また、日本のモニタリングサイト1000陸生鳥類調査は、今後のアジア地域におけるモニタリングのけん引役として期待されています。

